

喬木村が推進する経営モデル

夏秋きゅうり (定植:4月中旬～5月上旬 収穫:6月～10月)

<メリット>

- ・定植してから1ヶ月間という短い期間で収穫可能。回転が速い品目。
- ・規格が統一され、ほとんどのものが出荷できる。ロスが少ない。
- ・8月中旬～9月上旬頃は端境期となるため、価格が高くなる時期に収穫可能。

<デメリット>

- ・1日2回収穫が必要。(朝・晩)



+

いちご (定植:9月中下旬 収穫:12月～5月下旬)

<メリット> 価格が安定しているため、経営が安定。

<デメリット> 初期投資が大きい。(10aあたり、約1500万)



ねぎ (定植:5月 収穫:11月～1月)

<メリット> 初期投資が少ない。JAみなみ信州と契約栽培のため、価格が安定。

<デメリット> 冬の露地栽培のため、凍ってしまい染みてしまうと出荷できない。



市田柿 (収穫:10月下旬 乾燥:11月中旬 出荷:12月～2月上旬)

<メリット> 競合地がない干し柿であり、需要が高いため、価格が安定。

<デメリット> 果樹で年1作のため、自然災害の影響を受けやすい。

